



【ふくだいプレス】

fukudai Press

35

2018.12

めっちゃキレイ!
キャンパス・
イルミネーション



6 研究者ファイル
 [File05] 教育学部 Dylan Jones 准教授
 [File06] 医学部 四谷 淳子教授
 [File07] 工学部 坂元 博昭准教授
 [File08] 国際地域学部 月原 敏博教授

10 Fukudai ACE
 輝くエースたちにクローズアップ！

12 産学官連携本部発
 未来への布石
 コラム「知的財産・技術移転部です」第2回
FUKUDAI NEWS

14 こちら学生広報室 No.002
 「SNOW DE SMOW」

16 It's My CIRCLE
 陸上競技部／軽音楽部 M-ROCK

17 学びのバトン
 佐々木 庸介さん（福井市美山中学校 教諭）

18 学長の本棚 vol.02 『心の旅路』

19 福井大学基金 寄附者ご芳名



「インスタやネットにあるような オブジェは造るな」

キャンパス・イルミネーションの制作期間中、そう言い続けていた、制作チーム代表の森あいかさん（大学院工学研究科博士前期課程建築建設工学専攻1年）。「自分たちが今まで生きてきたなかで見たどんな些細なものでもいい、そこからインスピレーションを受けたほうが独自のものができるから」と彼女は言う。オブジェ制作やプロジェクションマッピング、光源制御のプログラミング、設置場所の空間デザインなど、さまざまな作業を分担する総勢34名を率いて挑んだ今年のキャンパス・イルミ。テーマは割とすんなり決まったが、「抽象的なので、個々のオブジェのコンセプトやアイデアをかためる段階で人それぞれ捉え方が違い、全体を一つの表現としてまとめるのに苦労しました」と言う。

オブジェ制作は、現代の灯りを表現する「今班」と、日本の昔からの灯りを表現する「昔班」に分かれて進めた。今班の小林風音さん（大学院工学研究科博士前期課程建築建設工学専攻2年）は、高さ約2メートルの塔型オブジェのなかに4段に設置した光源のプログラミングを担当。「5分ごとに繰り返す点灯パターンの前半は、塔の色を揃え、光を動的に移動させることで、光がプロ

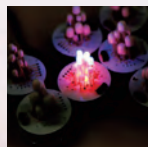


グラム制御されているとわかるようにしました。後半は、さまざまな色のグラデーションを見せることで、簡単にきれいな写真におさめられるようにしました」と狙いを語る。

プログラミングだけじゃない難関

最先端の照明技術を研究し、人と地球にやさしい光を見出すことを使命とする明石研究室では、これまでに、和ろうそくの独特のゆらぎを13個のLEDで実物さながらに再現した「LED和ろうそく」、それを赤・緑・青・黄・白の5色に置き換えた「フルカラーLEDデバイス」、さらに進化させ音や光に反応する「センサ付デバイス」などさまざまな光源を民間企業と共同開発してきた。

今回のイルミネーションでは同じLEDを数年間使い続けたせいか、精度にバラツキがあるのが悩みとなった。「どういう点灯パターンにするか、どんな色で、どう変化させるかなどを考えて、C言語でプログラムを書いていく作業は2、3日で出来ますが、その前段階に相当の時間を費やすことになりました」。例えば、すべての光源を1秒間点灯させるようプログラミングをしてみると、実際は、1.2秒だったり、0.9秒だったり、光源デバイスごとに大きな個体差があることがわかった。小林さんが担当したオブジェには、光源が28個入っていて、一個一個をタイマーなどで測って合わせても結局、かなりの誤差が生じてしまう。小



林さんは、28個をビデオ撮影し、どれがどれだけズレるのかをデータ化して、その分の係数をかけることで、一挙に揃うように緻密な調整に手間をかけた。制作はイルミネーション開始ギリギリまでかかったそうだ。

この日、イルミネーションの灯りに誘われるようにして、学外からも見学者が訪れていた。昔班の木や糸、和紙風の素材で作られたオブジェから柔らかに漏れる灯りや、和ろうそくのような光のゆらぎに見とれ、今班サイドへ移動すると、ぱっと見、ポップな色合いが印象的だ。ところが、じっくり見ていくと、木の格子を使ったオブジェや、綿密に制御された光の色や強度が、伝統的な「灯り文化」とつながっているように感じられる。

イルミネーション空間の中央に設置された2種のプロジェクションマッピングにも、日本の風景に育まれた灯りの歴史が表現されていた。これらは、映像制作ソフト「アフターエフェクト（After Effects）」と、プレゼンテーション用ソフト「パワーポイント」を駆使して制作された。



10月12日から18日まで文京キャンパスに灯された「伝燈」は、このあと松岡キャンパスへと移動し、10月22日から28日まで開催された。見逃した方は、来年をぜひ楽しみにしてほしい。

特集

キャンパス・イルミネーション 2018

今と昔をつなぐ光の

本学大学院工学研究科建築建設工学専攻の明石研究室が企画するキャンパス・イルミネーションが、今年も学内を幻想的な光で彩った。

約10種100個近くあるオブジェのほとんどは、

学部学科を問わず集まった学生たちによる自主制作。

光源の色や強弱の制御も一からプログラミングしている。

2009年に始まり、11回目を迎えた今回のテーマは「伝燈」。

伝統のあり方を光で表現したキャンパス・イルミネーションの様子を、制作秘話とともにお届けする。



プロジェクションマッピングを
動画で配信中！



テクノロジー

英文学の父

「チョーサー」に魅せられて

DYLAN JONES

ディラン ジョーンズ

教育学部 准教授(英文学〈中世英文学〉)

Profile

1992年、カナダ マギル大学文学専攻卒業、1995年、同大学教育学専攻を卒業し、ALTとして来日。1998年、トロント大学大学院文学専攻に入学し、2000年修了。同年に再来日し、布池外語専門学校講師、2002年、奥羽大学講師。2005年、福井大学教育地域科学部助教授、2016年、同大教育学部中等教育コース准教授となる。

It's My Favorite!



サッカー。ALTの先生たちと外国人チームを作ってサッカーをしています。長野県まで遠征しました。負けたけど。

過去が見える文学

私は英国の西に位置するウェールズの出身ですが、高校生のころ、父親の転勤でロンドンに移り住みました。そこでジェフリー・チョーサーという14世紀のイギリス詩人の作品に出会い、英文学のおもしろさに引き込まれました。チョーサー文学の特徴は、ラテン語やフランス語の文学と文化を融合させるなど、異なった要素を混ぜ合わせるという点にあります。なかでも、私は「パロディ」という手法に興味を持ち、チョーサーの作品を通して英語の成り立ちや時代背景、文化を読み取る研究をしています。

代表作の『カンタベリー物語』は、礼拝中に暗殺されたトマス・ア・ベケット大司教の廟へ巡礼に出た商人、貴族、平民など多種身分の巡礼者約30名とチョーサーが、誰の話が面白いかを競い合い、順にそれぞれのストーリーを語る「Frame story（枠物語）」です。

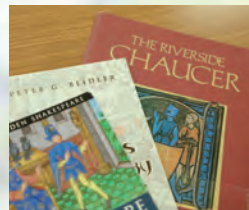
執筆された14世紀ごろは、フランスとイギリスが百年戦争をしていたころ。そのせいか、チョーサーの作品にはその当時の方言が使用されています。例えば「I am old」は、物語の中では「Ik am oold（イクアムウールド）」と方言で記されています。また、「same」「name」といった韻を踏んだ言葉が多く使われています。中世英語では、“サーマ” “ナーマ” と、現在の英語と発音が異なりますが、当時も今も言葉のリズムを楽しむことができます。チョーサーは英国のアイデンティティやプライドを保つために方言そのままを文学に取り入れたのです。

偉大な作家も

みんなチョーサーが好き

ルネサンス期の偉大な劇作家シェイクスピアもチョーサーの影響を大いに受け、ダイナミックな作品を多く残しています。それゆえにチョーサーは“イギリス文学の父”と評されます。

世界的大ヒット映画「ロード・オブ・ザ・リング」の原作者J・R・R・トールキンはオックスフォード大学で、チョーサーの作品の方言を研究したんですよ。



チョーサーの作品は後世、世界中で翻訳されて親しまれていますが、時としてその国の政治や文化に合わせてストーリーが改変されています。それをオリジナルと見比べて、考察することでその国特有の文化や時代の変遷や言語の特徴が見えてくると考えています。

みなさんもそれぞれの国が交錯する文化や習慣をポジティブに紐解いていくと、チョーサーやシェイクスピアのようにダイナミックな発想ができるかもしれませんよ。

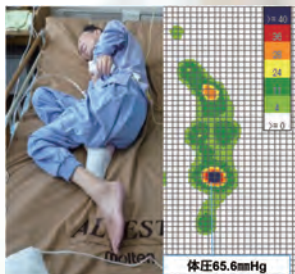
看護の持つ力

私が看護師として勤務していた頃、“床ずれは看護の恥”と言われていました。床ずれは、寝返りの困難な患者さんに多く見られる皮膚損傷です。医学用語では「褥瘡^{じよくそう}」と言います。患者さんの体位によって負担がかかる場所の皮膚組織の血流が滞り、水ぶくれや化膿がさらに悪化した症状です。

ある日、在宅療養中に直径15cmもの褥瘡を腰に患った患者さんを担当することになりました。患者さんの体位を変えてみたり、ガーゼを頻繁に交換したり、やってみるのですが回復の兆しが見えないのです。そこで、看護の基本に立ち返り、マットレスの硬さや創の洗浄方法、さらにはスキンケアなど、一つひとつを見直してみると、みるみる快方に向かい、車いすで元気に動けるまで回復されました。私たちでは治せないと思っていたものが、看護ケアの基本的な技術を生かすことで治すことができた「看護の力」を実感しました。

科学的に看護ケアを見直す

褥瘡に苦しむ高齢者を目にするうちに、なんとか治したいという気持ちが強くなり、創傷専門の研究室でマットレス（体圧分散寝具）をテーマに研究を始めました。褥瘡ケアで使用するマットレスは、凹凸に沿って身体を沈ませて接触面積を広げ、体圧を分散させます。マットレスに敷くシートに着目し、シートと体の接触圧を計ると、ピンと張ったシートはゆるく敷いた時に比べて1.8倍も高くなることが分かりました。そのため、体圧分散マットレスの場合は、少しシワがあるくらいゆったりと敷く方がマットの機能を活かせることに気づきました。この研究を活かし、体圧分散マットレス専用の伸縮性のあるシートを企業と共同開発中です。さらに、一人ひとりの患者さんのデータを機械学習させたAIを用い、より個人の体位変換に合わせた次世代の自動マットレスを実現できるのではないかと考えています。



研究テーマは、常に看護の現場から見えてきます。患者さんに起きている現象を科学的に解明し、看護ケアに活かすことを考えています。寝たきりの療養生活をおくる人は、寝る、食べる、排泄する、ベッドの上がすべての生活の場。そんな患者さんに「雲の上で寝ているようなベッド」を届けたいのです。

ベッドの上の患者さんに心地よい暮らしを届ける

四谷 淳子

Junko Yotsuya

医学部 教授(成人・老年看護学)

Profile

1968年、福井県生まれ。2011年、金沢大学大学院研究科保健学専攻博士後期課程修了。看護学校卒業後、15年間県内の病院にて臨床ナースとして勤務。2008年に金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域助教、2011年に大阪医科大学看護学部講師、2013年に同准教授を経て、2016年より福井大学医学部看護学科 成人・老年看護学教授となる。



It's My Favorite!



低温調理器でクッキングを楽しんでいます。ローストビーフもサラダチキンもとても美味しくできます。時短になり、かなりオススメです!

生体メカニズムから学び ナノの世界で活躍する アクチュエータを

坂元 博昭

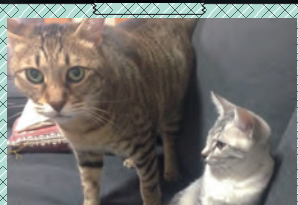
Hiroaki Sakamoto

工学部 准教授(ナノバイオテクノロジー)

Profile

1979年、鹿児島県生まれ。2009年、九州工業大学大学院生命工学研究科博士後期課程生体機能専攻修了。2009年、立命館大学総合理工学研究機構 博士研究員、2012年、福井大学大学院工学研究科特命助教、2014年、同大テニュアトラック推進本部 講師、2018年、同大学工学部物質・生命科学科准教授となる。

It's My Favorite!



猫派です。左のキジ猫とは学生時代に出会い、私と一緒に、九州から福井へ来ました。右の猫は、福井に来てから譲り受けました。二匹とも仲良く暮らしています。

ものづくりのヒントは 私たちの体内に

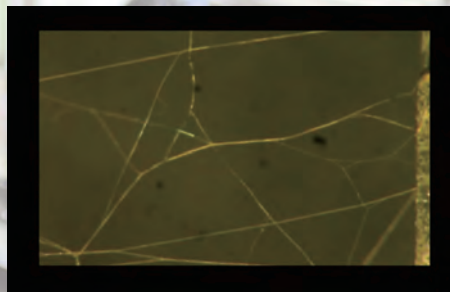
私たちの体内ではさまざまな物質が自発的に働いて、生きていく活動を機能させてくれています。こうした優れた生体のメカニズムから、人や環境に優しい「ものづくり」のヒントが見つかります。私は、体内エネルギーとして働くグルコース（ブドウ糖）から電気エネルギーを獲得するバイオ電池への応用、糖尿病検査で血糖値を瞬時に測定するバイオセンサのような体内情報をモニタリングする装置の開発を化学、物理、バイオなど分野横断の研究をしています。

福井に来てからは、電気・化学・熱・光のエネルギーを運動エネルギーに直接変換し、動作する「アクチュエータ」の研究をスタートさせました。近年は、高分子やプラスチックを素子にしたアクチュエータの開発が進んでおり、自由自在に動くことを可能にするロボットアームや胃カメラなど多彩な応用研究があります。

動くナノ繊維

アクチュエータの素材は、軽くて柔軟性のあるプラスチックが注目されています。しかし、電力をかけても、そのエネルギーに相当する動きが十分に得られないという課題があります。そこで私は、少ないエネルギーでも動く、ナノ繊維（髪の毛の細さの150分の1サイズ）へと発想を転換させました。

アクチュエータにするナノ繊維は、エレクトロスピニング法と呼ばれる高電圧をかけて紡糸する方法で作ри、電力を伝えやすくするため、微量の金属を混ぜました。実験で100Vの電圧をかけると1秒間に2回左右に動き、電圧を高くすると、繊維の振れ幅が大きくなることがわかりました。次は周波数を高くすると、振れ幅は変わらずに、高速で動くことがわかりました。ナノ繊維のアクチュエータは電圧や周波数を調整することで、動きの大きさや速さを変えることができるのです。



このアクチュエータは“高速に動く”ところをウリにしています。このナノ繊維を使って、分子の反応を促進させる攪拌に役立てたり、医療の分野で血液などの成分を分離したりと、ナノの世界で活躍させたいと考えています。

途上国での環境利用調査

地形や水の条件をどのように利用して住民は食料を生産し、生計を立てているのか。南アジアの途上国を訪ね、農業的土地利用などの環境利用、またそれに関わる慣行や制度についての調査研究を行っています。

10年ほど前に高地の人々の生態と歴史、文化との関連性を解明する総合地球環境学研究所の「高所プロジェクト」に参加し、インド最北部のドムカルという村を調査しました。プロジェクト終了後も、科研費などを得て調査を継続しています。この村は、大麦や小麦、アンズ、リンゴなどの栽培と牧畜が古くからの生業ですが、標高が高い集落では大麦など限られた作物しかできないため、村人は季節ごとに移動して農牧生産に従事し、さらには交易なども行っていました。

現地調査では私はまず景観や住民の日常行動、道具などをよく観察します。言葉が十分にわからなくても「土地」に対する人々の働きかけの内容や目的はずいぶん理解でき、過去についても推測できるようになります。疑問をもったことは書き溜めて、通訳の助けも借りながら一つ一つ聴き取り。こういった作業で、その「土地」と人々を深く理解できるようになります。



村人の話から浮かび上がった隣村との関係

聴き取りによって初めてわかったこともあります。ドムカル村はインドとパキスタン、さらには中国が領有をめぐる対立しているカシミール地方にあります。1947年の印パの分離独立以前は現在の国境（停戦ライン）はなく、村人は現在のパキスタン及び中国領内にまで毎年のように交易に出かけていました。また、ドムカルから山一つ越えたところにはトゥルトウックという隣村があります。そこは1971年までは停戦ラインの向こう側でパキスタン領に属しましたが、実はその時代でも村レベルでは非公式ながらドムカル村と繋がっていて食料の助け合いなどで共生関係が存在していたという話を聞きました。

私たちはこうして人々の暮らしぶりを解き明かし、新しい経済の活路やそれを円滑に進めるための制度作りの提案も行っています。幸福とは何かについてこちらが住民から学ぶこともあって、それも楽しい現地との交流となっています。

フィールド調査から 地域の実態と課題を学び、 より良い村づくりや 国づくりを考える

月原敏博

Toshihiro Tsukihara
国際地域学部 教授(人文地理学)

Profile

1962年、愛媛県生まれ。1991年、京都大学大学院文学研究科地理学専攻修士課程修了。1993年に大阪市立大学文学部助手、1997年に同学部講師を経て、2001年に福井大学教育地域科学部助教授。2008年に同学部教授、2016年、同大国際地域学部国際地域学科教授となる。

It's My Favorite!



先日初めて訪ねたミャンマーの景観や人々に心を奪われました。学生時代に少し本を読んだことはあったのですが、改めて本格的に調査研究対象としたり、資料探しや読書などを始めたところでした。

Fukudai ACE

輝くエースたちにクローズアップ!



SPORTS

地元・福井で国体初出場。女子ラグビー大健闘

教育地域科学部※ 学校教育課程4年 石渡 汐織さん

工学部 生物応用化学科4年 大堀 朱音さん

工学部 物質・生命化学科3年 高瀬 爽さん

50年ぶりの地元開催となった「福井しあわせ元気国体」に本学女子ラグビー部の3名が出場しました。石渡さんは、この国体に向けて3年前に創部。そして、当時、ラグビーのボールを触ったこともなかった大堀さんと高瀬さんを誘い、福井県の代表メンバーといっしょに練習を積み重ねてきました。石渡さんは、福井代表チームのゲームメイキングも担当し個々のプレーヤーの配置や作戦も練ったといいます。

予選は、三重県と北海道の代表チームに勝利し、2勝1敗で通過。ベスト8が激突する決勝トーナメントでは、大阪代表チームと対戦。前半は好調でしたが、後半に苦しみ試合展開となり、最後まで果敢にタックル

を続けたものの0-5で惜敗。最終結果は6位入賞でした。目標の5位入賞には届きませんでしたが、「経験したことのないプレッシャーのなかで、今までやってきたことのすべてを試合で発揮することができた」と話す石渡さん。力を思いっきりぶつけることができたので、悔いはないと笑顔で振り返りました。

最後まで何度も立ち上がり、戦い尽くした福大ラグールの3人。チームメイトとともに励まし合った練習の日々も含めて、大切な宝物になったことでしょう。

※教育地域科学部は平成28年度に教育学部、国際地域学部に変更しましたが、平成27年以前に教育地域科学部に入学した学生は現在も旧学部には所属しています。

全日本学生フォーミュラ大会 エンデュランス4位 歴代記録更新

福井大学フォーミュラカー製作プロジェクト (FRC)

9月5日から、静岡県で開催された「全日本学生フォーミュラ大会」に出場。国内外の92チームが参加するなか、昨年に引き続き総合14位、エンデュランス種目では4位と歴代最高の成績を残しました。

大会は、設計や車両コンセプト、マネージメント力を競うプレゼンテーションなど複数の部門があり、最終種目がエンデュランス（耐久走行）です。

FRCの車両コンセプトは「Pleasure with formula（プレジャーウィズフォーミュラ）」。「運転して気持ちのいい車、見ている人にも楽しんでもらえるような美しい車体を目指しました。」

代表の工学部機械・システム工学科2年藤田 裕人さんは「総合10位以内を掲



COMPETITION

げながら達成できなかったという点では残念ですが、図面や作業手順書、レポートの作成といったものづくりの根幹ともいえるコスト審査でも好成績が残せて嬉しい」と喜び、部員一人ひとりの努力が実ったようです。



SPORTS

世界カヌーポロ選手権に出場 水上の格闘を世界の舞台上で

工学部 機械・システム工学科

3年 太田 智之さん 3年 川崎 匠さん
3年 吉田 隼人さん 1年 本田 倫也さん

カヌー部の4名がU21の日本代表メンバーに選ばれ、7月31日から8月5日にカナダ・ウェランドで開催された「2018 ICF カヌーポロ世界選手権大会」に出場しました。ヨーロッパ勢など強豪ひしめく大会に挑み、1次リーグ3試合と2次リーグ6試合を行いました。結果は16チーム中12位。目標としたベスト8には届きませんでしたが、2年後に開催される世界選手権のシード権を獲得。成果をしっかりと後輩につなぐことができました。また、川崎さんは総合で11得点を決め、U21男子の部で、得点ランキング10位に入賞。「みんながつないでくれた1球を確実に決められてよかった」と、世界の舞台上でチームワークがしっかり発揮できました。

“誰かのためにできる何か”を形にしたい 海外の貧困地域で家を建てる

国際地域学部 国際地域学科2年 小泉 春樹さん

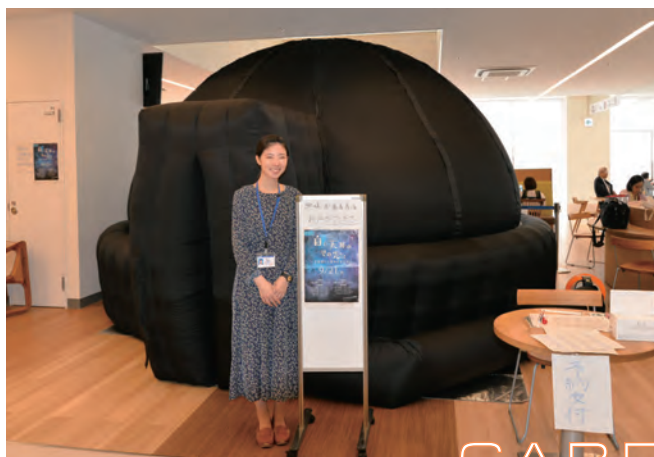
東南アジアなどの貧困地域で住居建築活動をおこなうボランティア活動「Step to Peace」に昨年から参加している小泉さん。全国から集った大学生ら71人とベトナムのカンナムで6軒の家を建設しました。

小泉さんは現地での建設活動以外に、運営メンバーとして、SNSを活用したメンバーの募集、協賛企業の紹介や、イベントの企画などを担いました。初めて参加した昨年は100%の力を出し切ることができなかったとの思いが残ったそうですが、「今年は全ての時間を全力で使い、チーム一丸となってやりたいと思ったことを全て形にできた」と手応えがありました。次は来年2月から始まるベトナム留学で、現地のNGO団体の活動への参加も考えています。小泉さんは世界中の人に笑顔になってほしいという大きな目標に向かって歩みだしています。

※写真中央手前が小泉さん



VOLUNTEER



CARE

病気と闘う 子どもたちに星空のプレゼント

医学部 医学科6年 小野 真彩さん

入院している子どもたちに本物に負けない星空を届けようと、9月21日に院内プラネタリウム「白い天井のその先に～宇宙旅行と星のおはなし～」の上映会を開催しました。

小野さんは、実習中の大学病院で子どもたちとご家族に入院生活の不安などから、少しでも気持ちを解放してほしいと星空に願いを込めました。

企画のきっかけは、友人が入院する子どもたちにプラネタリウムで星空をプレゼントしていると聞いたこと。開催に向けて、病院との交渉から当日の段取りまで行い、子どもたちには小児科病棟プレイルームの天井に投影、一般病棟ではドームを設置し、降り注ぐような星空を再現しました。

子どもたちが星空のストーリーに夢中になる様子を見て、小野さんは今後も継続して活動を繋げていきたいと気持ちを新たにしました。



西医体で 医学部水泳部 女子が 2連覇達成！ 医学部水泳部



SPORTS

西日本の医学部生が競い合う「西日本医科学学生総合体育大会」で、本学医学部水泳部女子が総合2連覇を達成しました。

200mメドレーリレー、50m平泳ぎで優勝、200・400mフリーリレー 2位、その他の個人種目も多数の上位入賞を果たし、全員の力で結果を残しました。

代表の医学科3年 湯沢 未希さんは、「プレッシャーはありましたが、結果を残せて嬉しい。何より、水泳部男子の応援が力になりました」と仲間の励ましが勝利に繋がり、喜びをわち合えた感動を語りました。

“結束を強くしたい”学部初の新入生合宿を企画

国際地域学部
国際地域学科1年
丸山 凌治さん

※写真中央手前が丸山さん



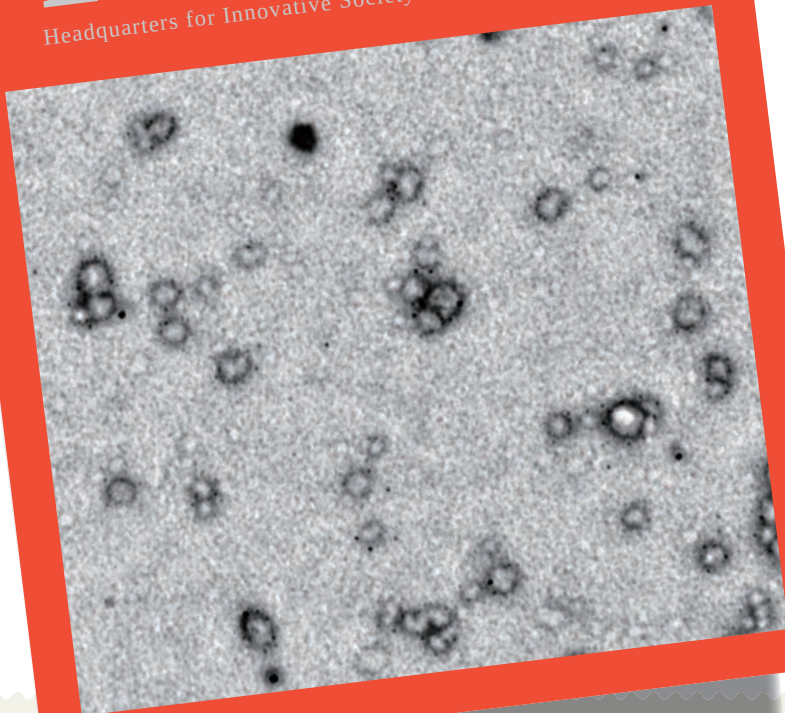
COMMUNICATION

「新入生合宿」は仲間との絆を深める絶好のきっかけ。でも国際地域学部では、残念ながら去年まで実施していませんでした。ゼロから企画した丸山さんは、宿の下調べなどをした上で、なぜ合宿が必要なのかを学部の先生にプレゼンテーションで訴え、理解を得て、初開催にこぎつけました。

合宿は9月25、26日の2日間で53人が参加。みんなで夜までゲームをしたり、語り合ったり。「絆が深まった」と丸山さん。後輩にもつないでほしい、と報告会も計画しています。

University of Fukui HI-SAC Headquarters for Innovative Society-Academia Cooperation

福井大学
産学官連携本部



ナノの世界

今回の表紙は「ミセル」。一つの分子の中に水に馴染みにくい「疎水性」と、馴染みやすい「親水性」の両方の部分を持つ高分子の鎖が自己集合した微小の粒です。石鹸などは身近なミセルです。ミセルは内部に様々な水に溶けにくい化合物を封入できる性質があります。

医療分野では患部で薬を効率的に作用させるための輸送体としてミセルを応用する「ドラッグデリバリーシステム（DDS：薬物送達法）」の研究が行われています。

今回紹介するミセルは体温に응答し、凝集するように設計されています。がんなどの病巣に直接ミセル溶液を投与すると、ミセルは体温を受けて多孔質の塊となり、そこに長く留まって構造体の隙間から薬を放出するという仕組みです。福井大学高エネルギー医学研究センターではPET（陽電子放射断層撮像法）やMRI（磁気共鳴画像法）などの分子イメージング技術を用いて、がんなど様々な病気の早期診断や治療効果予測の研究を進めています。牧野 顕准教授の研究グループでは、このミセルを使って、線源をミセルに入れた放射線内照射治療と抗がん剤による化学療法を併用する治療法の開発を進めています。がんの部位以外の被ばくを減らし、併用療法で高い治療効果を上げることが狙います。

「一つのミセルで二役をこなす」デザインでがんに迫ることができます。

透過型電子顕微鏡（TEM）倍率：15000倍

FUKUDAI

福大FB

いいね!

トップ 1

キャンパスイルミネーション2018
「伝燈」

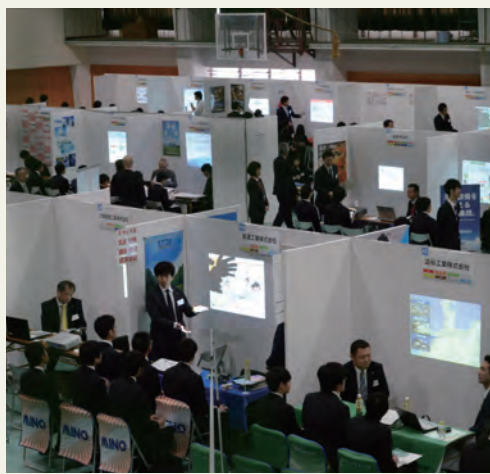
詳しくは特集で!

お知らせ

就職率が
国立大学11年連続
「第1位」となりました

2017年度卒業・修了者の全国大学実就職率ランキング（大学通信調査）が、「サンデー毎日」（2018年8月5日号）に掲載され、97.3%の本学は、複数学部を有する卒業生1,000人以上の国立大学において11年連続1位を達成しました。就職環境がよいと言われた今期でも全国平均88.6%を大きく上回っています。

この10年間、リーマンショック後の就職氷河期から現在のバブル期超えの売り手市場まで学生を取り巻く就職環境は変わっても、一貫して学生サイドに立ち愚直できめ細かい就職支援を行っていることが、高い就職率の維持に寄与していると考えています。さらに、卒業3年以内の離職率が非常に低いことは、就職後に活躍している卒業生が多い証です。



学内合同企業説明会の様子

イベント

Welcome to UF!
ようこそ福井大学へ



17か国84名の外国人留学生が、10月から本学での学びをスタートしました。

9月25日にアカデミーホールで開催されたオリエンテーション開会式で、眞弓光文学長は「本学には最先端の研究などを行う環境がそろっています。ぜひ自身の学術成果を挙げてほしい。また、福井は都会とは違い、山や川、海と自然に恵まれているのでぜひ堪能してください」と留学生たちにエールを送りました。

新入学留学生を代表して、米国・クレムソン大学からの交換留学生、Hance Marcus Ryanさんが「留学終了時には、日本語が上達しているようがんばりたい。みんなで素晴らしい一年にしよう!」と抱負を述べました。

産学官連携本部の
イベント

12月5日
ふくい知財フォーラムセミナー
本学文京キャンパス

12月14日
キャリア・アップ・セミナー
本学文京キャンパス

1月22日
FUNTECフォーラム
福井商工会議所



産学官連携本部が冠する「産学官」には産業や民間企業、大学の研究開発、官公庁が目指す新事業、それに必要な資金など、それぞれの分野のヒト・コト・モノをつなぎあわせ、技術革新や研究開発を目指すという意義が込められています。本学の産学官連携本部には、効率よく成果につなげるためのマネジメントを行うURA(University Research Administrator)と呼ばれるプロフェッショナルがいます。大学と企業が協同して人材育成を進めるにはどうしたらいいか、研究者と企業の技術を結び、得られる成果を一つでも多く社会貢献につなげるにはどうしたらいいか、大学の知的財産を活用・運用するにはどうしたらいいのかなど、最適なアプローチを探索しています。9月19日、20日に神戸市で行われた全国の大学や研究機関のRAの大会では、大学の知財経費とその投資の効果を検証した本学の取り組みがポスター発表賞を受賞し、注目が集まりました。

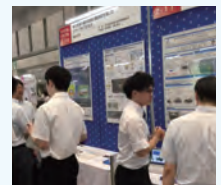
産学官連携を円滑に進める URAの役割

Topics



こんにちは！前回、福井大学は商標登録で保護している学章でそのブランド力をアピールしていることをお話ししました。知的財産を保護する他の方法には、アイデアを保護する特許権、実用新案権、デザインを保護する意匠権があります。これらは未発表であることが保護の条件ですので手続き前に公開すると効力を発揮できません。

起業しようとするときは、アイデアやデザインが活動の源になりますよね。せっかく考えたものが盗まれたり模倣されたりしてしまうことがありますよ！発表したり、コンテストに応募したりする前にちょっと考えてみてください。大学が研究成果を論文発表、新聞発表や展示会でアピールする時は、これらの保護の手続きを済ませることをルールにしています。ではまた。



NEWS 広報室が選んだ ふくだいニュース

COC+ニュース

はばたけ地域創生士！サミットを開催しました。

全国でCOC+事業を展開している秋田、岐阜、佐賀、富山各県の大学生、教職員らが一堂に会した「はばたけ地域創生士！サミット」を、11月13日と14日に、福井県県民ホールで開きました。福井大学は幹事大学となり、「ふくいCOC+」※と「岐阜COC+」の共催です。

県内外の30大学や行政機関・企業を含む計52団体約200名が参加しました。

13日は、文部科学省の中野理美地域学習推進課長、福井県の櫻本 宏総務部長を迎え、本学の眞弓光文学長は「サミットは、各地域の課題解決の体験談や思いを互いに直接聴ける機会であり、これを機に全国のCOC+が今後、協働しながら発展していく事を期待します」と開会挨拶をしました。



ふくいCOC+事業推進責任者である本学の岩井善郎理事・副学長はCOC+事業の背景・目的をめぐり、大学と地域がともに協働・挑戦していくことの重要性を説明しました。

文部科学省「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業委員会



委員を務める福岡女子大学の和栗百恵准教授による基調講演「なぜ『地域創生』か？～来る社会と、大学教育で身につけるべき力から考える～」では、グローバル化が進み価値観が多様化し、10年後に無くなる仕事や新たに生まれる職業など変化が激しい時代を背景に「『何を学び』、『どのように学ぶか』自らの行動をリフレクション(ふりかえり・省察)しながら身につけるべき能力(主体性・実行力・創造力・考え抜く力など)を培うことが大学教育に求められている」と強調しました。

続いて、地域創生士などの資格を目指し、地域でさまざまな取り組みに挑んだ秋田大学・岐阜大学・佐賀大学・富山大学・福井大学の学生らが実践を発表し、学生らは仲間たちのそれぞれの奮闘ぶりを知り、地域貢献への思いを共有しました。

※「ふくいCOC+」は、福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学、福井医療大学＝協力大学が、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、福井県内6大学が連携して福井県や福井県商工会議所連合会などと協働し、地域における雇用創出、学生の地元定着率の向上を推進しています。

SNOW DE SNOW

福井の冬って他県から見るとどーなの？

みなさんこんにちは！福井の冬もこれから本番を迎えますね。2018年2月は大雪で大変でした。記録的な豪雪として全国ニュースにもなりました。そこで、今回は他県出身の福大生たちに、地元と福井の冬の生活の違いなどを、降雪量にスポットをあてて取材してみました。

北海道

奈良 健一郎 さん
(北海道出身)
国際地域学部 国際地域学科3年

北海道と福井の雪質が全然違う！

除雪後

福井で初めて冬を過ごして驚いたのは雪がピチャピチャで歩きにくかったことです。福井の冬は湿度が高く雪の水分量が多いため、雪が降っているときに傘を差さなければ服が濡れてしまうので驚きました。それに対して北海道は梅雨もなく冬の湿度も低めなので、雪もふわふわで服についても手で払うとさらさら落ちていきます。

山道でクロスカントリー

北海道では公園や山の付近の道路でクロスカントリースキー（歩くスキー）をしている人をよく見かけました。また、地元の多くの学校ではスキーかスケートの授業があります。僕も子どもの頃は、スキージャンプをして遊んでいました。

北海道の冬にこたつはいらない！

北海道の家の造りは暖房用ボイラーを設置したセントラルヒーティングが主流で、完全に対冬用に作られているので、室内なら冬でも半袖短パンで過ごせてしまいます。福井で借りているアパートには壁暖も床暖もなく、初めて福井で冬を越したときはそのあまりの寒さに生まれて初めてこたつを買いました。なかなか使い心地は良かったですが、やはり防寒対策がしっかりしている北海道の家では必要ないと思います。また、北海道には一人に一着『丹前(たんぜん)』という防寒グッズもあります。

【丹前】
tanzen

丹前は全国の温泉宿でも定番だった、昔ながらの綿入の和服。北海道では湯冷め防止や寒さ対策に使われ、いつも寝る時に着ています。



必須アイテム

Must Item in Hokkaido

除雪前

福井の除雪はマイペース…

除雪の質とスピード感が違うと思いました。北海道では朝の3時から除雪が始まり、小さい町にも除雪車が入り込んで雪をかつさらっていくので、通勤・通学の時間には道路は綺麗に除雪されています。それに対して福井は、少し幅の狭い道だと、除雪が丁寧に行われていないでガタガタだったり、通勤ラッシュに除雪が間に合っていないかったりしていたと思います。

新潟県

福井の冬でもへっちゃら。 新潟だってたくさん降ります！

わたしの地元の新潟県は雪深く、福井の大雪でもあまりびっくりすることはありませんでした。新潟の方が降雪量は多く、除雪の際も大雪を見越して動いているので、地域の学校が休校になることはそうそうありません。(笑)
福井では、除雪でできた雪山でソリをしたり、かまくらを作ったりしました。本当は除雪の雪山で遊んではいけないと教えられていましたが、しっかりと踏み固められていれば大丈夫！？と言う気持ちで遊びました。

福井県

福井豪雪 市内でも 積雪量147センチ！

福井は北陸の雪国として有名ですが、2018年2月は記録的な豪雪になりましたね(+_+)
中心部の福井市では積雪が147センチメートルにまで至りました。130センチを超えたのは
1981年の「五六豪雪」以来37年ぶり、例年の3倍以上だったそうです。実際、朝起きたら
雪が積もりすぎていて家から出られないという人も多くいました。雪かきをして後ろを向けばも
うすでに積もっているなんてことも…。雪に慣れて
いる福井県民でも大変な思いをしました。また、
大学ではちょうど期末試験期間と重なり、日程が
前後する事態になりました。

埋もれちゃい
ました♡



雪に埋もれる
福井大学



【簀子】 sunoko

収納している布団などの家具の下に敷く
ことで通気性を確保し、カビの発生を防
いでくれるアイテムです。



冬の便利アイテム
Useful Item in Winter

東京都

加藤 大典 さん
(東京都出身)
工学部 機械・システム工学科2年



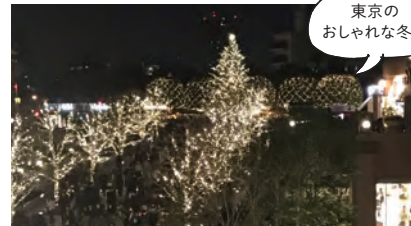
福井の交通は雪に強い！

福井の公共交通機関の雪対策に驚きました。例え
ば、えちぜん鉄道は線路に積もった雪を除雪する
ラッセル車が走って、積雪があってもタイヤが乱
れることが少ないように感じます。そもそも東京
では雪が積もるのが5年に1度ほどで、積雪の影
響は大きく、連休になることも少なくありません。
また道路上でも融雪のためのスプリンクラーがあ
り、雪国でかつ車社会が発達した福井ならではの
光景です。

加湿器いらずの福井の冬

福井の冬は乾燥することがなく、東京で冬にいつ
も使っていた加湿器の出番はありません。冬に顔
が痛くなることも少なくなりました。ただ気温は福
井のほうが低く感じます。そんな時は厚手のコ
ートで寒さをしのぐのが良いと思います。

東京の
おしゃれな冬★



山口県

橘 武彦 さん
(山口県出身)
教育学部 学校教育課程2年



山口ではできなかった 雪ダイブが福井ならできる！

福井の雪と比べると、山口の雪は軽いように感じま
した。山口ではそもそも積もる日自体が少ないで
す。福井の冬の第一印象は"じめじめして寒い"
ということ。はじめは憂鬱になって死ぬ思いでした。
しかし、どこへ行くにも雪があり、ただ道を歩くだ
けでも楽しかったのは意外でした。福井に来てか
ら、駐車場などの雪かきを手伝うという経験もでき
ました。深く積もった雪にダイビングするのは福井
の冬の楽しみのひとつです。

沖縄県

沖縄の冬は福井の春！

2018年2月は雪が自分の身長より高く積もって帰
れなくなり、大学で寝ることもありました。
沖縄の冬は気温が福井の春や秋ぐらい。1月でも
梅の花が咲きます(写真参照)。でも、島なので風
が強く気温より寒く感じます。沖縄の冬服はウィン
ドブレーカーなど風を防ぐものがあれば十分です。
沖縄で白い息が出ることは珍しく、小学生のときは
ゴジラごっこをして盛り上がりました。



沖縄の冬

【長靴】 nagagutsu

普通の長靴ではありません！履き口を絞
れる長靴です。福井では普通の長靴だと
雪が入ってしまいます。



福井で買った便利アイテム
Useful Item in Fukui

大見謝 恒宙 さん
(沖縄県出身)
大学院工学研究科
博士前期課程
材料開発工学専攻1年





短距離、中距離、砲丸投げ、ハードル、幅跳び…と短期集中型のトラック&フィールド競技選手が多い文京Cの陸上競技部は総勢40人。

今年の福井国体では、審判員として写真判定委員や選手の招集管理、表彰式など、多くの場面を支えました。こういうサポートがなければ、選手も競技ができません。福井で9.98秒を出した桐生選手の記録に関わったのは貴重な経験。審判員の業務は競技をする者としての「支え合い」です。

陸上競技部でよかったと思えることはたくさん。試合のかけひき一瞬、一瞬が楽しい！有名選手に近い場所で競技を見られるのは最高！男子・女子楽しく練習できるのがいい！軽く始めるだけでストレス解消できた！など、イイコト盛りだくさん。



CIRCLE No.03

文京キャンパス

陸上競技部

It's my CIRCLE

福大生の半数以上が、クラブやサークルに所属しています。

学内のクラブやサークルは、体育系・文化系あわせて120近く。

有名だったり、意外と知られていなかったり……どんな活動をしているのか、ちょっと覗いてみました。

『It's My CIRCLE』に
登場したい
サークルのみなさんは
広報室までご連絡ください。
【E-mail】
sskoho-k@ad.u-fukui.ac.jp

CIRCLE No.04

松岡キャンパス

軽音楽部
M-ROCK



部室はいつもロックなステージ♪ヘビーなロックからJ-POP、メロウなバラードまで、メンバーは部内のバンドをいくつも掛け持ちできるから、いろんなジャンルをがっつり楽しめます！

毎年7月と12月に開催する部内ライブは、朝から夕方まで観客もバンドもヒートアップする2日間。他大学のバンドも招待し、音楽で競い合う「練習試合」だってしちゃいます。文化会系だと思いきや、朝練もするストイックな体育会系のような一面も。

ライブで最高潮に盛り上がったときは、観客のことを“みんな大好き！”って思えるくらい一体感が味わえる、そんなプレシヤスな体験ができるM-ROCKです。



いかに「学びの面白さ」に 気づかせるか。大切なのは 教員自身も学び続けること



福井市美山中学校
教諭
佐々木 庸介さん
Yousuke Sasaki
2011年度
大学院教育学研究科
学校教育専攻 修了



言葉だけではなく、行動からも読み取る。 「子どもたちの心をみとる力」を学びたい

教員になりたいと思ったのは小学校の頃で、病気で入院していた時期に、特別支援の先生に出会ったことがきっかけです。その先生は、私に「勉強って面白いんだ」と気づかせ、学ぶことに興味を持つように導いてくれました。ちょうど、「総合的な学習の時間」という、教科の枠を超えた探究型のカリキュラムが、小学校の授業に取り入れられた頃とも重なり、退院してからは、授業も楽しくなり、とくに好きだった理科を教える先生になりたいと思うようになったのです。

大学では、教育地域科学部の障害児教育コースを専攻しました。どうしたら学習に興味をもってくれるのかといった、子どもたちの心理面を学ぶには最良だと思ったからです。とくに福井大学独自の「探求ネットワーク」や「ライフパートナー」といった実践的なプログラムで培ったことは、今の自分にも生きていく部分が多くあります。

そういった学びのそれぞれを、うまく関係づけるために、大学院に進学しました。インターシップなどを通じて、現場や世の中の状況も含めて何度も自己をふり返りながら学んでいくうちに、バラバラだった知識や体験が、徐々に自分の中でつながり意味づけられていきました。また足りないところを主観的にも客観的にもみることもできるようになって、教師としてどう生きていけば良いかの指針を得ることができました。

教員になってからは実践を積みなが

My memories



大学の卒業旅行で九州に行きました。



大学院では、公教育を学ぶ意義についてもチームで探究しました。

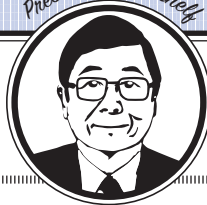
「理科」は誰もがヒーローになれる 魅力的な教科です

ら、地域の理科教育を支えるスペシャリストを目指すCST（コア・サイエンス・ティーチャー）上級福井の認定を受けました。現在もCSTを含む様々な研究会や講演会などに参加して、他校の先生方と共に探究していて、それが教師としての成長を助けてくれています。

理科という教科は、答えが一つではなかったり、答えにたどりつくまでのプロセスが多岐にわたるので、自分の気づきや意見が肯定されるチャンスが多いことが魅力だと思います。

私自身がそうだったように、学習が苦手な子や発達障害のある子でも理科ならがんばれる、理科が好きだと思ってもらいたい。自分で学びたいという力を高めたり、子どもたちの気づきをクラス全体の思考につなげるサポートをしたりすることが教員の役割だと思います。

時々、大学の教材に戻って、子どもたちの発言を検証してみることもあります。大切なのは、教員自身も学び続けることだと思います。子どもたちと相談しながら自分自身も探究していけるので、毎日が新しい発見に満ちています。



物語の感動が 直接心に飛び込んでくる映画

今日の一枚

『心の旅路』

監督：マーヴィン・ルロイ

主演：ロナルド・コールマン、グリア・ガースン



DVD特別版 3790円+税 ワーナー・ブラザーズ ホームエンターテインメント

映画『心の旅路』、ジェームズ・ヒルトンの小説を1942年に映画化したものである。ヒルトンの小説では『チップス先生さようなら』のほうが有名で、こちらを読んだ人はいくらかもしれない（これも古い作品なので読んだ人はいないかも）。映画の原題は『Random Harvest』であるが、『心の旅路』のほうが私にはしっくりくる。

この映画を見て泣かない人は人ではないと思えるほどに、感動的な素晴らしい映画である。戦争だけがをして記憶喪失になった男を愛したひとりの女の愛を綴った映画だと書くと、ありふれた薄っぺらなものに感じられるかも知れないが、この映画を30年以上前に家のテレビで観た時、涙が止まらなかったことを今でも憶えている。

過去を全く憶えていない記憶喪失の男を愛し、結婚して、子どもを持った女が主人公である。その後、男は旅先で交通事故に遭い、それまで喪失していた過去の記憶を思い出す、その一方で、この間の女との生活の記憶をすっかりなくしてしまい、ふたりは離ればなれになる。ひとり残された女は、男は死んだものと思ひ、失意のどん底でやがて大切な子どもまで失う。ある時、死んだと思っていた男が実は生きていたことを知った女は、男が自分との生活の記憶を失っていることに気づく。女は、男がやがて自分と過ごした記憶を取り戻してくれることをひたすら信じ、ふたりの過去は一切伏せたまま、男の秘書として働く。男は、仕事の必要上、女に「仮の妻、形だけの妻」になっくれるよう頼む。男を本当に愛している女にとっ

て、これほど残酷な頼みもないと思われるが、女はそれでもふたりの過去を話さず、男の頼みを受け入れる。やがて男が全ての記憶を取り戻す時がやって来る。その時の桜の木のある背景の素晴らしいと思ったら!!

見終わった後に、素晴らしい愛のかたちを知って自分の心が豊かになったようにさえ感じられる映画である。「男の勝手な感動よ」と女性陣から叱られるかも知れないが、皆さんもきくと感激するだろう。最新の映像技術を駆使した今の映画も面白いが、物語の感動が直接心に飛び込んでくる昔の映画も素晴らしいと思う。くれぐれも、「愛の映画に照れて笑った貴方が寂しかったわ」（22歳）作詞・作曲／谷村新司）と言われたいように。

学長 眞弓光文

福井大学基金

学生の皆さんへの修学支援のため、
福井大学基金へ多くのご厚意が寄せられています。
ご支援に対し、心より御礼申し上げます。

【福井大学基金の寄附状況】

寄附申込数 2,882件(延べ数) 寄附金総額 1億8,368万5,295円

平成30年6月1日から平成30年10月31日までの寄附者ご芳名(五十音順)

個人

青木 直美 様	黒田 健嗣 様	中橋 寛之 様
明石 行生 様	上月 宏司 様	中村 義治 功 様
赤松 善弘 様	河野 純子 様	難波 謙一 様
朝倉 俊行 様	河野 陽子 様	西ヶ花 羽咲 様
石田 久哉 様	小林 喬郎 様	野尻 悦嗣 様
磯崎 修治 様	小藤 幸男 様	橋口 浩一 様
井上 彪 様	小和田 和義 様	橋本 正章 様
今村 英二 様	笹木 俊男 様	浜田 正治 様
上田 恵一 様	神藤 洋爾 様	藤井 繁子 様
宇随 幸雄 様	新野 秀志 様	布施 英憲 様
大井 孝允 様	鈴木 真寿美 様	二ツ矢 祥久 様
大野 文代 様	角屋 広幸 様	古澤 好子 様
岡田 理代 様	関川 はるみ 様	堀内 英子 様
奥泉 譲 様	園田 哲司 様	牧野 浩一 様
尾原 通正 様	竹川 博康 様	松井 一人 様
笠松 佳晃 様	竹下 浩介 様	松嶋 麻衣 様
柏山 善英 様	田島 裕久 様	眞弓 光文 様
柏木 邦夫 様	立林 寛 様	水野 幸郎 様
加藤 丈尚 様	田中 利幸 様	森 透 様
加藤 英人 様	田辺 俊朗 様	山崎 滋孝 様
加藤 裕康 様	高橋 秀夫 様	山下 恵代 様
金子 達郎 様	玉木 洋 様	山出 清志 様
川上 泰志 様	地代 郁夫 様	山本 順子 様
川島 市郎 様	筒井 政善 様	山本 孝義 様
川島 淳子 様	寺澤 則子 様	湯浅 右人 様
窪田 真由美 様	永井 崇司 様	吉田 和子 様
倉田 源右ヱ門 様	中越 昭夫 様	吉田 尚旦 様
黒澤 佳世子 様	中西 勝 様	ほか 匿名希望の方 43名

法人・団体

医療法人うぶごえ 様
有限会社昂成都市計画 様
嵯峨野株式会社 様
平野純薬株式会社 様
福井大学工業会 様
福井大学工業会 近畿支部 様
福井大学同窓経営者の会有志 様
福井大学同窓経営者の会キャリア支援委員会 有志 様
福井放送株式会社 様
みどり建設株式会社 様
株式会社吉田塗装工業 様

福井大学基金の詳細については福井大学HPをご覧ください。 <https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>

お問い合わせ先

福井大学基金事務局

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9-1

TEL 0776-27-9903 (ダイヤルイン) FAX 0776-27-8518 E-mail kikin@ad.u-fukui.ac.jp



地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COC+)

県内大学が
福井の地域と

ひとを育てる、
福井を育てる。

始動!

ち い き そ う せ い し

ふくい地域創生士®

県内4年制大学の学生から50名が誕生!

県内の4年制大学が参加し、福井県ならびに地域の産業界などと連携し、
各大学の強みを活かし、地域の課題解決の中心的役割を担える人材を育てる事業(ふくいCOC+事業)です。

開催! はばたけ地域創生士!サミット

県内外30大学や行政機関・企業など
計52団体、約200人が集結しました!

2018年11月13日・14日、福井県県民ホールに全国でCOC+事業に参画している
大学生、教職員などが一堂に会し、「はばたけ地域創生士!サミット」を開催しました。

今後も「ふくいCOC+」の活動や展開に注目!

ふくいCOC+
5大学連携事業ホームページ

www.allfukui-cocp.jp

